

# 志學館大学での「市長と語る会」発言に対する対応方針

〔開催概要〕

日時:令和8年1月19日(月)10:50~12:20

場所:志學館大学 6101教室

鹿児島市 市民協働課

# 「市長と語る会」発言に対する対応方針

別紙（発言要旨）

日時：令和8年1月19日（月）10：50～12：20  
場所：志學館大学 6101教室

番号	発言者	提案等要旨	市長発言要旨	関係部局	検討結果、今後の方針等
1	志學館大学生	<p>タイトル：おやっとなさあ～新成人 成人式をUターンの起点にする「おかえりかごんまプロジェクト」</p> <p>鹿児島市では若者の市外・県外流出が進んでいることが課題だと考えました。そのためUターンをする若者を増やそうと考え、Uターンするきっかけについて考えたところ家族・生活環境・仕事・心理的要因などがあることがわかりました。その中でも特に「地元への感情的記憶」がUターンに強く影響すると考え、以下の提案をします。</p> <p>コンセプトとしては成人式を「帰郷の起点」とし、鹿児島への愛着を再確認する場にし、感情が動く成人式で、地元の魅力を“記憶”として刻みまします。大きく食・スポーツ・企業の3方向から提案します。</p> <p>① 食 × 成人式「成人式おかえりフードプロジェクト」 ・鶏飯・さつま揚げ・鹿児島のお茶などを会場周辺で提供。 ・「味覚×記憶」により、地元の思い出を強化。 ・ミニカップ形式で提供し、帰省した新成人にも親しみやすく。 効果：地元愛の向上、SNS発信、観光PR。 リスク：天候、混雑、食物アレルギーなど。</p> <p>② スポーツ × 成人式「地元プロチームとの交流企画」 ・鹿児島ユナイテッドFC、レブナイズの選手と交流。 ・試合の無料招待券を新成人へ配布。 ・チケット提示で商店街や飲食店の割引も実施。 ・奄美の卒業生イベントを参考に、出身者の交流を促し地元とのつながりを強化。</p> <p>③ 企業 × 成人式「20歳×地域未来宣言プロジェクト」 ・成人式会場に企業パネルを設置し新成人が「働きたい会社像」「帰りたい地元の姿」を回答 ・若者の価値観を企業や行政が把握し、企業誘致や地域戦略に活用。 ・企業見学パス・1日社員体験パスなどを配布し、地元企業との接点を増やします。</p> <p>成人式を「鹿児島は帰る場所」という感情的記憶を刻む場にする事で将来のUターンにつながる“種”を植えることができると考えました。Uターンは制度ではなく記憶で起こるものであり、成人式からその記憶をつくることですが、提案の目指す未来であると考えます。</p>	<p>皆さんがUターンを促進しようということテーマを選んでいただいて、そして人はどういう時にUターンを考えるかということをよく分析していただいたなと思っていました。ライフステージに応じたタイミングは色々あって、例えば30歳ぐらいになって結婚を考える・家を買うことを考えるときに、今、東京の方は家の単価はものすごく上がっていますので、普通の稼ぎの人が一戸建て買おうと思ったら、おそらく都心から一時間半ぐらいのところしか買えないという状況ですが、そういった点で鹿児島は通勤しやすいというところをPRできるんじゃないかなと思います。</p> <p>その中で成人式との接点を興味深く聞いていました。なぜかという私も今同じことを考えていて、「心に種を植える」これをどこでやるのか、若い人の接点をどこで作るのかというのを考えているからです。例えば東京では県人会で集まりますが、参加している方の年齢が上の人が多くて、若い人との接点がなかなか作れないというのがあります。</p> <p>そういった中で、成人式でこういう接点を作るというのを非常に興味深く感じます。このはたちの集いに合わせて、こういったイベントができるのかということを検討していきたいなと思います。</p> <p>そしてもう一つ、会社との接点という点で、1日パスというところで皆さんにお伝えしたいことがあります。皆さんこれからいろいろな仕事に興味を持つと思いますが、仕事や会社に興味を持ったら、その仕事をやっている人、もしくは会社の人に直接話を聞くというのが一番ためになります。憧れている仕事が本当に憧れなのか聞いてみて、違ったでもいいと思っています。では本当に憧れたとき、どうしたらなれるのか、これは実際にやっている人が一番詳しいです。そうすると今度は話を聞かせてくれるのかと思うかもしれませんが、おそらく皆さんがちゃんと段取りを踏んで丁寧に「話を聞かせてください」と言われたら、「嫌です」という大人はほとんどいません。「あなたの仕事に興味があります。ぜひ話を聞かせてください」ということを丁寧に送ってきてもらえば、99%の人は時間を作ります。でもこれは若者全てに対してではありません。学生に対してです。</p> <p>皆さんが一旦就職した場合には、「ではその時間分、なにか見返りがあるのか」ということを求められます。ところが学生のうちは、大人は見返りなしに話を聞かせてくれます。このカードを使えるのは皆さんが学生のうちです。あと何年かの有効期限付きです。そのため、ぜひやりたい仕事・興味ある会社があれば、学生のうちに話を聞いてください。ぜひこの学生でいる時間を有効に活用していただければ、皆さんの進路選択にも非常に有効な学びが得られると思います。ありがとうございました。</p>	産業局	市長回答のとおり
				教育委員会	<p>はたちの集いの目的である「二十歳を迎えた若者が、社会を担う一員としての責任と自覚を新たにもつとともに、主体的に自分の将来やふるさと鹿児島市の発展を考える機会とする。」に合致したご提案です。</p> <p>令和7年度は観光戦略推進課が発行する県外向け情報紙「鹿児島市いまどき情報」にはたちの集いの式典の様子を掲載しており、いただいた提案を参考に主に②について、検討いたします。</p>

# 「市長と語る会」発言に対する対応方針

別紙（発言要旨）

日時：令和8年1月19日（月）10：50～12：20  
場所：志學館大学 6101教室

番号	発言者	提案等要旨	市長発言要旨	関係部局	検討結果、今後の方針等
2	志學館大学生	<p>タイトル：鹿児島からの転出者を減らしたい</p> <p>鹿児島市は出生数より死亡数が多く、転入者より転出者が多いです。人口は現在約59万人だが、2050年には約49.8万人まで減少する予測がでています。高齢者割合は約3割に達し、税収減少・サービス低下・空き家増加などの問題が深刻化する見込みとなっています。そこで私たちは鹿児島からの転出者を減らすために3つの対策を考えました。</p> <p>対策①：企業との連携強化 ・企業の社員食堂でさつまいも・黒豚などを提供し、地産地消と地域愛着を促進。 ・企業×市の奨学金支援：企業側も奨学金返還支援に参加し、勤続年数に応じた返還免除を実施。 ・特産品ギフト券制度：勤続年数に応じて地元特産品のギフト券を贈呈し、働くモチベーション向上につなげる。</p> <p>対策②：雇用・キャリア支援の強化 ・広域インターンシップの拡充：かごJOBを活用し、県内外の学生が幅広い企業と出会える機会を拡大。 ・奨学金返還支援制度の改善：地域活性化枠の定員を30名から50名に拡大、募集期間の前倒し、県内大学での周知強化することで就職活動の早期化に対応しより多くの学生に制度を活用してもらうことができると考えます。</p> <p>対策③：公共交通機関の強化 ・かごりんの拡大：自転車シェアリングを住宅地（谷山・武岡など）にも拡大し、日常利用を促す。 ・便数増加：人材不足解消のため市・県の補助金を増額し、バス・電車の運行頻度を改善。（車がなくても通勤・通学・生活がしやすく、転出抑制につながる。）</p> <p>鹿児島市は人口減少と若者流出が大きな課題だと考えます。そこで企業連携・キャリア支援・交通基盤の3つの方向から改善を図ることで、「住み続けたい」「戻りたい」鹿児島市の実現を目指します。若い世代が活躍できる街づくりこそが、未来の鹿児島市の成長につながると考えます。</p>	<p>奨学金に着目しているところが本当にいいと思いました。この中にも奨学金を借りている方もいらっしゃると思いますし、私自身、日本学生支援機構の奨学金を借りて15年返済をし、ついこの間返済が終わりました。特に若いうちは奨学金の返済のために手取りが減りますので、しっかり支援していくことが大事だろうと思うので今後検討していきたいと思っています。</p> <p>そして交通の案も出してもらいました。今、交通についてすごく悩みながらやっています。運転手が足りない、そして鹿児島市の市電・市バスは運賃収入が両方合わせて約32億円のところ、運営費が約47億円程度のため、既に約15億円ほど皆さんの税金を使わせていただいています。今後も税金の使い方を考えながら取り組んでいきたいと思っています。また今、新しい交通を試していこうということで、自動運転なども視野に入れて取り組んでいきたいと思っています。そしてかごりんについても徐々に広げていきたいなと思っています。自転車が安全に走れる道路を整備したところから広げていく予定です。今度、谷山の方も自転車運行ネットワークの計画を組んでいるので、そういった道路整備に合わせて広げていきたいと思っています。ありがとうございました。</p>	産業局	市長回答のとおり
				環境局	シェアサイクル「かごりん」のサイクルポート増設に当たっては、既存ポートの設置状況や走行データ等を踏まえ検討することとしております。ご提案の住宅地（谷山・武岡など）におけるサイクルポートにつきましては、市内中心部での運営としていることや、貸出用自転車の配置の対応などから、現在のところ設置の予定はございませんが、自転車走行ネットワークの整備状況や、利用者の状況等も踏まえ、今後検討していきたいと考えております。
				交通局	路線・ダイヤの見直しについては、本市における地域公共交通ネットワーク再構築の方針等を踏まえるとともに、運転士の確保状況も考慮しながら、バス運行データ分析システムを活用し、効率的、効果的な路線・ダイヤ等の見直しを行うこととしております。
				建設局	運行ダイヤについては、各時間帯における利用状況のほか、安全面を含めた適切な運行間隔、電気の供給能力等を総合的に勘案して運行しておりますが、今後も引き続き利用状況等を確認し、必要に応じて、運転士の確保状況を考慮しながら、ダイヤ改正等を行ってまいります。
				建設局	市長回答のとおり

## 「市長と語る会」発言に対する対応方針

別紙（発言要旨）

日時：令和8年1月19日（月）10：50～12：20  
場所：志學館大学 6101教室

番号	発言者	提案等要旨	市長発言要旨	関係部局	検討結果、今後の方針等
3	志學館大学生	<p>タイトル：「イメージを変えよう！」～まだ見ぬ魅力が人を動かす～</p> <p>鹿児島市では労働人口が減少し、観光客の確保も十分ではない状況です。また地域産業や観光資源は豊富ですが、「給料が低い」「将来性が見えにくい」というイメージを持たれやすいです。市内総生産は約4,000億円減、就業者数は約6万人減少する見込みであるため、信用・信頼を高め、鹿児島市の“稼ぐ力”を強化する必要があると考えました。</p> <p>そこで着目したのは昨年自分たちも参加した新特産品コンクールです。新特産品コンクールは生産者が本気で売れる商品づくりに挑む場として機能しており、出品数は毎年100品前後と多く、多くの事業者が参加しています。このイベントを「より多くの人が参加できる形」に拡大することで、地域の魅力発信につながると考えました。</p> <p>具体的な提案はコンクールを金土日の3日間開催にし参加型イベントにすることです。金曜日は従来通りの審査員・パイヤー向けの専門コンクールとし、土・日曜日は一般来場者が参加できる体験型イベントとして開催。この提案は実際に成功しているラーメン王決定戦を参考にしました。参考にした理由はSNSやテレビでのイベント開催前後の広報により高い集客力を誇っているからです。その他にB級グランプリや暮れの市を参考にしました。</p> <p>投票は「1人1票+購入者に追加投票」でシンプルにし、参加料は無料とし、SNS・Webでの情報発信を強化します。運営体制としては、行政と実行委員会の体制に、学生・市民ボランティアを加えます。地域ぐるみの参加型イベントとして運営し、まちづくりへの参画意識も促します。</p> <p>期待される効果としては、鹿児島市・地場産業の認知度向上、生産者の販路拡大と商品開発意欲の向上、市民がまちづくりに参加するきっかけづくりなどが考えられます。</p> <p>想定される課題とリスクとしましては、既存イベントを使うことで初期コストは抑えられますが、規模拡大により運営コストが増加する考えます。そのため、初年度は規模を限定し、段階的に拡大することが現実的と考えます。</p> <p>まとめに、鹿児島市には魅力ある資源がすでに多く存在するため、見せ方と伝え方を工夫することで、鹿児島市の“稼ぐ力”を高め、未来の発展につながると考えました。</p>	<p>ラーメン王決定戦を参考にし、自分たちが参加して自分たちが選ぶというところにストーリーが生まれ、思い出が生まれてくるところに注目していただいたのだと思います。このラーメン王決定戦に関しては、西原商会さんやKTSさんがノウハウや収益化などのモデルを持っており、特産品コンクールを拡大する場合どこが頭に立つかということによりますが、提案していただいたようにできたらいいなと思いますので、私がこういったイベント屋さんとうまく話したいなと思いました。ありがとうございました。</p>	産業局	市長回答のとおり

「市長と語る会」発言に対する対応方針

別紙（発言要旨）

日時：令和8年1月19日（月）10：50～12：20  
場所：志學館大学 6101教室

番号	発言者	提案等要旨	市長発言要旨	関係部局	検討結果、今後の方針等
4	志學館大学生	<p>タイトル：交通のあしを守る公共交通改革</p> <p>私たちは、市電・市バスの課題に着目し、改善提案を行いたいと思います。まず課題は①バス利用者の減少、②運転手不足、③ 財政経営の持続性です。</p> <p>バス利用者の減少の要因としては、コロナ以降、外出頻度が低下し20代以上の約半数が外出頻度6割以下になっていることが挙げられます。また鹿児島市は主な交通手段が自家用車になっており地域によっては利用率が約8割を超えています。これに対する対策としてSNSを活用した情報発信を提案します。</p> <p>「バスで行ける〇〇」「車より速い通勤」など短い動画で魅力を発信したり、CO<sub>2</sub>削減量や地域貢献を“見える化”し、利用への心理的ハードルを下げるができると思います。</p> <p>運転手不足の要因として、利用者減による収入減と、公的支援の充実なしに路線・人数を維持することを人件費削減によりカバーしていることが挙げられます。また大型二種免許取得者の減少、未経験者を採用しにくい状況も要因の一つです。加えてバス運転手の収入は全産業平均より低い現状もあります。</p> <p>対策としては、先ほど課題①のところで説明した対策により収入を増やし、それを運転手に還元し収入を増やせると考えました。加えて路線維持コストを自治体・国が一部負担し、賃金へ回す仕組みも大事だと考えます。また、大型二種免許取得については現在行っている支援に加え、教習期間の給与支給（勤務扱い）・生活支援金・研修手当・寮・社宅の提供、会社立替＋一定年数勤務で返済免除など、負担軽減の仕組みを提案します。</p> <p>3つ目に財政経営の持続性についてです。現状として、市電は黒字化しましたが、物価高騰や設備更新で経営は厳しい見通しです。一方で自動車運送事業は赤字が続き、資金不足が懸念されます。対策として広告収入の拡大を提案します。バスの車体・停留所・駅スペースを広告枠として活用したり、キャラクターデザインやラッピングで注目度を高めることを提案します。また、市電同様にバスにも位置情報がわかる電光掲示板を導入することで「今バスがどこにいるか」わかるようにしたり、事故等のトラブルもすぐわかるようにすると利便性が上がると思います。</p> <p>以上のように、バス利用者の減少・運転手不足・財政難という3つの課題に対し、情報発信・人材確保支援・収入確保・利便性向上を総合的に提案しました。「まちのあし」である公共交通を守り、これからも多くの人を訪れ、移動しやすい鹿児島市であり続けるために私たちは貢献していきたいです。</p>	<p>今、大きな課題である公共交通に着目していただいてありがたいなと思いました。この中で、なるほどなと思ったのが、「バスに乗って遊びに行こう」という内容をどうやってSNSで拡散していくのか、ここが非常に面白いと思いましたので参考にさせていただきたいと思っています。</p> <p>団地線が通っているところに関しては、昼間の需要を作っていかないといけません。朝晩は通勤で一定の需要があるけれども、お昼、例えば高齢者の方がまちにでていきたい時に乗りたいダイヤが欲しい。でもそれだけでは需要が足りないから、なかなかこれに取り組めないということがあります。そういったところでは住んでいる方以外にバスに乗ってもらう取組というのを参考にさせていただきたいと思っております。そして、ぜひ皆さんからも、こうすればバスに乗るんだけどな、これだからバスに乗らないところをどんでんいただけると参考にしていきたいと思っております。ありがとうございました</p>	交通局	<p>SNSを用いた情報拡散については、LINEやX等での周知広報の他、youtubeでの情報発信に取り組んでおります。ご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p> <p>バス停標識には単独または他の事業者と共同で設置するものや、様々な形状があり、電車のような電光掲示板を設置することは困難であるため、交通局では、全バス停にQRコードを掲示し、当該QRコードをスマートフォン等で読み取ることで、バスの現在地を確認することが可能となっております。</p> <p>共同バス停など交通局所有物ではないもの以外の市電・市バスの車体や施設については、広告媒体として活用し、収入増を図っております。電停ネーミングライツや電車内広告デジタルサイネージの導入など新たな取組みを行い、さらなる広告料収入の増に努めてまいります。</p> <p>令和7年度からは、バスの運転士を目指す方を対象に、大型二種免許の取得費用を助成しています。</p> <p>また、免許取得期間中は交通局の「研修生」として採用し、給与も支給していますので、安心して資格取得に取り組んでいただけます。</p> <p>さらに、令和8年度からは、県外から移住して交通局へ就職される方への支援制度も新たに実施する予定としており、今後も、運転士不足の解消に向けて取り組みを進め、みなさまに安心してご利用いただける公共交通を守ってまいります。</p>

「市長と語る会」発言に対する対応方針

別紙（発言要旨）

日時：令和8年1月19日（月）10：50～12：20  
場所：志學館大学 6101教室

番号	発言者	提案等要旨	市長発言要旨	関係部局	検討結果、今後の方針等
5	志學館大学生	<p>タイトル：“超人材”が地域の未来を変革する-県内大学、新時代の学びへ-</p> <p>まず初めに私たちが目指す人材像「超人材」というのは既存の学びを超え、課題を読み解き、実践を通じ価値を創造する高度人材のことをいいます。鹿児島市で若者が多く県外に流出している現状に対し、県内大学の学びを改革し、将来を描ける環境づくりが必要だと考えました。ではなぜ若者が県外就職を希望するのか。それは大学で学んだ専門性を活かせる県内企業が少なく感じたり、県内企業を十分に知らないからです。実際、鹿児島大学の県内就職率は多くの学部で4割未満で志學館大学の7割～8割に比べて低く、大学在学中に「鹿児島で活躍する自分」を具体的に想像できない環境が課題となっています。</p> <p>そこで私たちはこの課題解決のためにメタバース経営演習プログラムを提案します。仮想空間に店舗・事業所を開設し、シミュレーションから実践まで段階的に経営を体験する新プログラムで、学部横断型プロジェクトとして希望者が参加します。このプログラムは鹿児島大学で実施することを考えています。なぜ鹿児島大学かというと、幅広い学部構成や約1万人という県内最大の学生数、既に自治体・企業との連携基盤が整っているため既存の資源を生かすことにより比較的低コストでの導入が可能と考えたためです。</p> <p>学びの流れは2段階構成とし、第一段階はAI顧客とのシミュレーションで経営体験し、ポイント報酬を得る形とし、一定の経験を積んだ学生は、第二段階の実在の企業・顧客とのビジネスへ挑戦することができます。</p> <p>プログラムの特徴としては、地域企業と連携し、商品開発～販売～納品まで体験することができ、メタバース空間に県内大学も参加し、複数大学と連携することができます。また学生自身がブランド設計・ロゴ制作・SNS広報を担当することで、県内大学全体のブランド価値を向上することができます。またメタバースになじみがない地域住民のために、メタバースだけでなく、現実空間にポップアップ店を設置し、地域との接点を創出することも考えます。</p> <p>次にメタバース活用の利点について説明します。メタバースは距離を超えて参加可能で他大学とも同一空間で学べます。また顧客も遠方からアクセス可能、海外顧客にも翻訳機能で対応できます。そして仮想空間で試作品を展示し、反応を見ながら改善できるのでシミュレーションにより、安全に失敗しながら判断力を鍛えることが可能になります。</p> <p>メタバースを利用することで期待される効果としては、学生は県内企業で働く姿を具体的に想像しやすくなり、企業は若者と早い段階で接点を持ち、採用・連携の機会が増加。地域としては大学横断の取り組みとしてブランド価値が向上し、人材定着の可能性が高まります。</p> <p>以上のように「超人材」の育成を軸に、メタバースと実社会をつなぐ新しい学びを鹿児島大学から導入し始め、県内大学全体に広げることで、若者の県外流出抑制と地域の未来づくりに貢献できると考えます。</p>	<p>メタバースという若い世代の発想を聞かせていただきありがとうございます。せっかくなので教えてもらいたいの、今皆さんが使っているメタバースで、例えばその仮想空間上に実際出店して、そこで買い物ができる、もしくは皆さんが実際出店で買い物をしたことがありますか。世代の違いがあるものですか、ぜひ聞きたいなと思って、単純に今のメタバースってどこまで来ているんだろうということをお聞かせください。</p> <p>（学生：ご質問ありがとうございます。私たちのグループメンバーの中では、特にそういうメタバース環境にアクセスしたりですとか、ショッピングをしたりですとか、そういう体験があるメンバーはいなかったんですけども、メタバースというアイデアが出てきたきっかけというのがありまして、コマースでメタバース空間のコマースルを見て思いつきました。そういうテレビCMとか、ネット上では見かけるけど、そこまで身近ではないものという感じの認識になっております。）</p> <p>ありがとうございます。メタバースについては私も非常に楽しみだと思っております。実は20年前の私が皆さんぐらいたいに、メタバースというのが出てきて、そこでは仮想通貨のリンデンドルが流通したり、商売をしたりして、いろんな企業が出店しました。ですがその時はなかなか時代が早すぎて、廃れてしまったんですけども、今は色々進んできてるので、今後私もメタバースを楽しみにしたいなと思っております。ありがとうございました。</p>	企画財政局	市長回答のとおり
				産業局	市長回答のとおり

# 「市長と語る会」発言に対する対応方針

別紙（発言要旨）

日時：令和8年1月19日（月）10：50～12：20  
場所：志學館大学 6101教室

番号	発言者	提案等要旨	市長発言要旨	関係部局	検討結果、今後の方針等
6	志學館大学生	<p>タイトル：「安全なまちづくり」みんなのBOSAIラボ</p> <p>日本には2,000以上の活断層が存在し、大きな地震を起こす可能性が高い活断層が複数指摘されていることから、大地震はいつ起きてもおかしくないと考えられます。実際南海トラフ地震は30年以内に発生確率10%、首都直下地震は70%と予測されています。</p> <p>次に鹿児島市の意識についてみていきます。「災害に向けた備蓄をしているか」というアンケートについては、3日分以上の備蓄ありが11.4%、3日分はないが少し備蓄しているが42.5%、今は備蓄していないが、今後備蓄予定が33.8%、備蓄の予定なしが10.9%となっており、約半数が災害への備えをしていないことがわかります。また、備蓄しない理由として、「近いうちに大災害は起きないと思う」「避難所に行けば何とかかなる」という意見があり、この結果からいつどのような災害が起こるか分からないにも関わらず災害に対する意識は高くないといえます。そこで私たちは冷静に対処できる環境づくりを今のうちにすることが重要と考え2つ提案をします。</p> <p>提案の1つ目は防災グッズのカatalog配布です。市がCatalogを全世帯に配布し、各家庭が必要な防災グッズを選んで申し込み、それを市が郵送で届けます。具体的な例としては飲食物、簡易トイレ、モバイルバッテリー、乳幼児・高齢者向けなどを考えています。実際に世田谷区で2024年に行われ約50万世帯中38万世帯が利用しました。この提案により防災意識の向上や実際の備えの強化が想定されます。</p> <p>提案の2つ目は避難所のマイクロ発電所化です。公立小中学校を中心に太陽光発電+蓄電池を設置します。全ての避難所に設置することは難しいため公立の小中学校とします。鹿児島市の小中学校148校のうち、59校は既に設置されています。あくまでも非常用と考えるため、スマホの充電やエアコンの使用ができる規模とし、太陽光発電は20Kw、蓄電池は30Kwを想定します。他の自治体（千葉市・仙台市）でも導入実績があります。</p> <p>具体的な実施期間としては、防災グッズの配布がCatalog配布から発送まで約5か月以上、マイクロ発電所化は手続や設置工事を含め6か月～1年と考えます。</p> <p>予算は防災グッズ配布がCatalogを1世帯8,000円相当とするため鹿児島市の世帯数や郵送料などを考慮し、総額約25億円、マイクロ発電所化は1校あたり約600万円を想定しています。</p> <p>運営体制は防災グッズ配布が役所+運送会社、マイクロ発電所化は役所・電力会社・EPC会社・メンテナンス会社を想定しています。</p> <p>注意点としては費用が大きいこと、全世帯の参加は難しい、発電設備の設置・維持にもコストがかかることが挙げられます。</p>	<p>災害の被害・防災というのは重要なテーマであり、なかなか若いうちは元気だから興味が湧きにくいのですが、そういったところに注目していただきありがたいなと思います。そして鹿児島の場合は桜島の火山噴火の災害であったり、毎年来る台風、豪雨に対する災害の解決が必要です。「かごしまiマップ」がネットで見られるようになってるので、ぜひ皆さんには、普段住んでいる家だったり、もしくはバイト先だったり、そういったところでどういった崖崩れがあるか、こういった危険があるかなど普段いる場所のリスクを確認をしておいていただいて、まずは自分で備蓄をしていたきたいなと思っています。</p> <p>そしてもう一つは、例えばおじいちゃんおばあちゃんと同居をしますというパターンがあると思うんですけども、皆さんは若いから足腰もしっかりしていてすぐ逃げられる一方で、避難に時間がかかる高齢者や障害者の方をどう支えていくのか、そしてどう早く避難してもらうのかということも重要なテーマですので、ぜひ興味を持っていただきたいと思います。</p>	<p>危機管理局</p> <p>環境局</p> <p>教育委員会</p>	<p>市長回答のとおり</p> <p>再生可能エネルギー活用計画等に基づき、市有施設における太陽光発電設備の率先導入に努めており、引き続き、設置可能な建物等への導入を推進してまいります。</p> <p>太陽光発電については「鹿児島市再生可能エネルギー活用計画」に基づき、引き続き、国の補助制度等を活用しながら導入を進めることとしており、容量については、補助要件を踏まえ、学校において使用するエネルギーに見合った10kW基本としているところです。また、蓄電池については、日中に発電した電力の多くをその場で消費できている状況にあることや、平成25年度以降に設置した太陽光発電設備が自立運転機能を備えていることから、現時点では設置は考えていないところです。</p> <p>（市立小中学校117校のうち、令和6年度末時点で太陽光発電装置を設置している学校は60校〔民間事業者が屋上に設置した分を含む〕）</p>